

君と知る 「流域治水」って なんだろう

荒川上流河川事務所 × 君と漕ぐ ながとろ高校カヌー部 (新潮文庫 nex)

あなたにできるコトがあります

令和元年東日本台風では、荒川第一調節池が活躍しました。しかし、近年の頻発する豪雨などによる被害を減らすためには、河川を管理する国や県に加え、市町村や住民なども協力して水害を防ぐ「流域治水」が必要です。例えば、洪水時には入浴や洗濯を控えること。雨水をためたり、浸み込ませたりできる森林や緑地、田んぼなどを保全していくことも「流域治水」です。



公園などが整備されている荒川第一調節池は、一時的に洪水をためて下流に流れる水の量を減らします。(2019年10月13日撮影)



荒川第一調節池内にあるさくらそう水門。近くには、田島ヶ原サクラソウ自生地があります。

観察会や管理作業に参加しよう

荒川の自然を守る会 で 検索



開平橋上流の河川敷にある三ツ又沼ビオトープ。このビオトープでは、かつて身近に見られた希少な動植物が数多く確認されており、官民協働で管理作業や自然観察などが定期的に行われています。



官民協働の取り組み

入間川流域の保全活動を助成

武州・入間川プロジェクト で 検索



武州ガス(企業)と荒川上流河川事務所(河川管理者)、埼玉県生態系保護協会(有識者)を主体とするプロジェクトで、入間川流域の市民団体などが取り組む環境保全活動を助成・支援します。助成金は最大20万円。応募締切は3月14日です。



水質調査(荒川流域ネットワーク)



作家・武田綾乃さんの『君と漕ぐ ながとろ高校カヌー部』(新潮文庫 nex)と荒川上流河川事務所がコラボしました。

